

事務事業評価表（補助金等）

1次評価日（主幹等） 30年3月30日

2次評価日（課長等） 30年3月30日

1 事業名	大学院修士博士課程支援事業補助金			コード	11309	
2 担当部課	部等	産業振興部	課等	工業振興課	担当者	下田 典弘
3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にかふれる、にぎわいのあるまち			
		政策	基幹産業の振興	施策	工業の振興	
		事務事業	大学院修士博士課程支援事業補助金			
		予算科目	ものづくり人材育成支援事業	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
	根拠法令等	岡谷市人材育成支援特別課程受講補助金交付要綱				

●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	補助金	② 期間	平成26 年度 ~ 年度
補助金の種別	その他事業補助	③ 対象	事業者
④ 制度の内容	中小企業が行う人材育成のための事業のうち、従業員が信州大学特別課程「超微細加工技術社会人スキルアップコース」を受講する場合の受講料の一部を補助する。		
⑤ 積算方法	受講料の1/2以内とする。 限度額50,000円（ただし1企業当り1回を限度とする。）		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	平成22年度に開設した「信州大学大学院研究科博士課程専門職コース」や信州大学大学院の取り組みを活用し、企業の人材育成、新技術開発などへの支援を行い、工業の振興を図る。 この特別課程の受講者へ支援を行い、精密加工の知識、技術の習得に努める。 このことにより、次のステップである大学院修士課程、博士課程の入学を促進する。		

5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数	1	0	4	0
実際の支出件数	1	0	4	
執行率	100.0%	-	100.0%	
② 金額（円）				
予算額	50,000	0	200,000	0
財源				
一般財源	50,000	0	200,000	
内訳				
特定財源	0	0	0	
* 特定財源（負担割合）の説明				
実際の支出金額	50,000	0	200,000	
予算執行率	100.0%	-	100.0%	
支出額の前年度比		0.0%	-	

③ 29年度の交付先

(有)オオハシ、(株)小野製作所、コジマ工業(有)、(株)諏訪機械製作所

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		*妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)		高い
評価項目		はい	いいえ			
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1		5		
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。	1		5		
③	全ての対象者に交付している。	1				
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。	1				
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1				
⑥～⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)				
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。			0		
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。			5		
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。					
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。					
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、用途を検証している。					

7 有効性評価		*有効性=成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性		#DIV/0!
評価項目		はい	いいえ			
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1				
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1	0			
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1				
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。	1				
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること) 企業規模や業況により、受講できる人材に限られてしまう。
	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 人材不足に対応すべく、より一層特別課程の受講者へ支援を行い、精密加工の知識、技術の習得し、企業の生産性向上に寄与すべく、引き続き人材育成支援を図っていく。
改善方法	
改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------